

県北地域における9~10月出荷用小ぎくの栽培体系

【1 成果概要】

9月出荷作型の適応品種については、6月上旬~下旬（現状5月下旬）の定植が好適です。

10月出荷作型の適応品種については、6月下旬（現状6月中旬）の定植が好適です。

作型	定植期	5			6			7			8			9			10			適応品種
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
9月出荷	5月下旬 (慣行体系)	V	~	~	~	-Y														アイマムホワイトビーチ、もみじ など
	6月上旬		V	~	~	~	-Y													アイマムレッド、松子、かじか など
	6月中旬			V	~	~	~	-Y												アイマムビュアホワイト、アイマムレモンイエロー 花絵、しずか、みちのく など
	6月下旬				V	~	~	~	-Y											アイマムピンク など
10月出荷	6月中旬 (慣行体系)			V	~	~	~	-Y												
	6月下旬				V	~	~	~	-Y										アイマムオータムレッド、アイマムオータムホワイト アイマムオータムイエロー など	


V:挿し芽 定植 Y:摘心 整枝 :採花期

図1 県北地域における9~10月出荷用小ぎくの栽培体系

【2 効果】

- 1 切り花長は概ね100cmで、出荷規格（80cm）を充足します。
- 2 出荷期は、9月出荷作型の適応品種は秋彼岸の物日需要期に間に合います。また、10月出荷作型の適応品種は定植時期を遅らせても変わりません。
- 4 品種によっては草姿が改善（品質向上）します。
- 5 栽培期間が慣行体系より短縮するため、農薬の散布回数や使用量を削減（省力・低コスト化）できます。

【3 留意事項】

9月出荷用品種の好適な定植時期は品種によって異なるので、
品種適性を確認してから定植期を決定してください。

表 農薬の使用回数、散布量

	9月出荷				10月出荷		
	5/30定植 (慣行体系)	6/11定植	6/20定植	6/30定植	6/20定植 (慣行体系)	6/30定植	7/10定植
散布回数	16	14	13	13	17	16	15
散布量(慣行体系対比)	-	85%	65%	64%	-	95%	73%
農薬費(慣行体系対比)	-	92%	79%	76%	-	96%	78%

県北農業研究所における定植から採花期までの散布実績（粒剤施用（定植時）を含む）



図2 草姿の改善（品種：アイマムレモンイエロー）
（左：5/30定植（慣行体系）、右：6/20定植）

【4 適応対象】

岩手県北地域の小ぎく生産農家

担当研究室 県北農業研究所 園芸研究室

〒028-6222 岩手県九戸郡軽米町山内 23-9-1

TEL. 0195-47-1073 FAX. 0195-49-3011